

発達障害当事者が自身で立ち上げた大人の発達障害自助サークル
「よさの大人の凸凹の会」から現在は個人活動へ移行しつつ、活動中

【新連載】「凸凹目線で考える地域のミライ」

6月テーマ 「ひきこもりと8050問題」

全国の地域が抱えている少子高齢、人口減少についてどうしていくか住民参加の上、丹後の各地域で未来を見据えたまちづくりの議論が行われています。しかしながら、発達障害やLGBTといったマイノリティ目線（ここでは「凸凹目線」と名付けました）、マイノリティ観点での議論ができていないのでは？住民参加とはいえマイノリティの方々不在での議論に終始している現状（そもそも当事者の方が議論の場に出てくるのが難しい問題）があります。

そこで毎月テーマを出して「凸凹目線で地域の課題を洗い出し未来を考えるプロジェクト」として『凸凹目線で考える地域のミライ』を考えていきたいと思っています。これがきっかけとなって議論が進むことを願います。

今月は、「ひきこもりと8050問題」をテーマにしました。Facebookで呼びかけたところ反応を頂き、メッセージを寄せてくれました。本来であれば、このメッセージをこの場で紹介したいところではありましたが、

メッセージを寄せて下さった方々の心情に配慮し、紹介させて頂くことは控えさせていただくことにしました。

わたくしはひきこもりの当事者でなければ、支援者でもありませんが、こうやって取り上げさせていただいたのは、ひきこもりが、発達障害をはじめとした「いきづらさ・はたらきづらさの問題」と、関連性が疑われているからです。だからこそ、伝えたいという思いがありました。

しかしながら、ひきこもりの問題はとても根が深く、デリケートな問題でもあり、オープンにすることを望まない風潮もあり、いろいろ難しいということを感じました。「伝えられない」ということをそのままお伝えさせていただくことしかできない、とても歯がゆい思いです。

中高年のひきこもりが、いま大きく取り沙汰されています。丹後は、介護福祉に力を入れている地域ではありますが、介護を必要とされるご本人さまだけに目を向けるのではなく、そのお子様といった家族の方々にも目を配っていくことが求められています。

【ひきこもりの定義（厚生労働省）】

様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）を指す現象概念

【8050問題】

80代の親と50代の未婚の子世代の世帯孤立・困窮問題。昨年末、全国紙で大きく取り上げられ、記事によると、NHKの番組に出演したコミュニティーソーシャルワーカーがそう呼び、新たな地域課題として提起。

ご意見・ご感想など yosano-dekoboko@outlook.jp FB:[@yosanodekoboko](https://www.facebook.com/yosanodekoboko)